

新島基金による 新島講座について

同志社創立百周年記念事業の一環として同記念事業寄付金の一部をもって新島基金が設定されました。

○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育、研究の国際交流を推進し、もって一国の良心たうる人材の育成に資することを目的とし、

基金の果実をもって (1)新島講座の開設 (2)新たな奨学制度の開設 (3)教育・研究の国際交流の推進などを行なうことになっております。

○新島講座

新島講座はつねに時代を先導する同志社の教育と研究が、更に一層充実、発展し、またその成果が社会の進展に寄与するようにと願って新島基金の目的事業の一つとして設立されたものであり、内外の碩学を招聘し講演会などを開催する講座と、本学園教職員がその研究成果を発表する東京講座の二種類を現在開設しており毎年開催することになっています。

新島講座・第二回東京公開講演会

昨年十一月七日(土) 東京・安田生命ホール(新宿区西新宿一―九)において、第二回新島講座・東京公開講演会が開催されました。十三時三〇分から始まった講演会は、上野総長の挨拶に引続き、森浩一教授、三輪茂雄教授の順で行われました。

(グラビアページに両講演模様を掲載)

演題ならびに講師

○古代における中国と日本

——古墳文化を比較する——

同志社大学文学部教授 森浩一氏

○白砂を訪ねて列島草枕の旅

——鳴き砂の秘密——

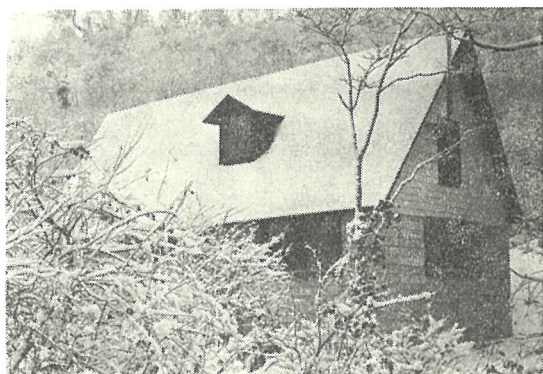
同志社大学工学部教授 三輪茂雄氏

森浩一教授は、日本の古墳、特に巨大古墳が中国、朝鮮の文化的影響をうけながら、六世紀から七世紀にかけてつくられ、比較的短かい期間に発達、衰退していく過程について、埋葬方法(前期古墳・後期古墳)、副葬品である鏡(三角縁神獸鏡、内行花文鏡等)の大きさ、模様、中国からの鏡渡来のルート、その生産地域の推定、当時の倭

人社会と中国揚子江流域以南、会稽郡地方の越人とのつながりなどについて多くの研究成果を含んだご講演をされました。

つづいて、三輪茂雄教授は、鳴き砂について、旧約聖書の中の「出エジプト記」に記されたシナイ山の鳴き砂、ダーウィンの「ビーグル号航海記」にあるチリのコピアボの谷で鳴く砂、マルコポーロの「東方見聞録」に見えるタクラマカン砂漠の鳴き砂などなど、歴史的にも鳴き砂が世界各地に存在した事実、そして日本各地の海岸にもあった鳴き砂の事例を詳しくご紹介になり、また、なぜ砂が鳴くのかを実演され、砂の鳴く原理を聴講者にわかりやすく、ユーモアたっぷり約一時間二〇分にわたってご講演されました。両ご講演とも講堂の聴衆に深い感銘を与え大きな拍手のうちに終了いたしました。

なお、次の第三回東京公開講演会は、今年の十一月十三日（土）、銀座ヤマハホールで開催の予定です。



八丁山「新心荘」完成

「同志社大学八丁山新心荘」が去る十一月八日完工、竣工式が行われた。旧「新心荘」があった峯床山麓の八丁平は学術的にも貴重な湿原であるため、その環境保護が問題となったため、同志社としても旧新心荘を撤去、新たに京北町上弓削の八丁山中腹に山林を購め、移転したものの。新「新心荘」は生物学研究の施設として、二部ワンダーフォーゲル部の部活動の場として、さらに一般学生、教職員、その他関係者の健康管理の一環として、多目的に利用しうる。移築に際しては八丁平「新心荘」の建設当時と同様、二部ワンダーフォーゲル部員の献身的な協力があり、一層その存在意義を深からしめた。なお「新心荘」の新心は新島襄の言葉「自ら新心を得、新民となれ、云々」によっている。